

## 公益社団法人日本天文学会理事会議事録

日 時：2013年5月11日（土） 13:00-17:00

場 所：八重洲ホール 411室 中会議室

出席理事：櫻井、奥村、山田、中村、本原、熊谷、松尾、茂山、青木、宮田、山岡、田代、石丸、滝沢、林田（以上15名）

出席監事：尾中、郷田（以上2名）

また、西野事務長、黒岩事務員が出席した。

### I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席者が15名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井隆

署名人：櫻井隆、奥村幸子、山田亨、尾中敬、郷田直輝

I-2 前回議事録

資料2に基づき、前回（2013年3月20日）の理事会議事録が報告・確認された。

### II. 報告

II-1 移籍・退会報告（資料3、中村）

2013年3月13日より2013年4月30日までの間の移籍・退会者数が報告された。準会員から正会員への移籍会員数は15名、正会員から準会員への移籍数は11名、退会者数は65名、除籍者数は32名であった。

II-2 公益社団法人2012年度監査報告（資料4、尾中、郷田）

公益社団法人の2012年度事業の監査を2013年4月24日に行った。参加したのは監事2名、会計理事2名、庶務理事2名、事務長、及び会計士1名である。結果、2012年度事業は正当に行われたことを承認した。

II-3 事業担当理事の近況

1. 年会（宮田）

2013年3月20日～23日に埼玉大学で開催された日本天文学会春季年会の講演件数等が報告された。講演総数は679件。うち口頭講演459件、ポスター講演219件、ポストデッドライン1件であった。年会参加者は972名。懇親会参加者は223名。24日に開催された公開講演会の参加者は220名。現在、年会参加登録費の見直し、ポストデッドラインペーパーの採択基準の簡略化等の議論を進めている。

2. 月報（青木）

毎月1回編集会議を開催。5月号からはVERA特集を掲載している。その後、ALMA特集を企画中。4,5月号は誤植が数ヶ所あり、誤植ゼロを目指すべく、原稿チェックプロセスの改善を検討した。月報のウェブ版を担当していたアルバイトが就職したため、今後、新しいアルバイトを探す予定。

3. 庶務（中村）

会計理事および事務所とともに、3月末に内閣府へ2013年度事業計画書等を提出した。2013年度事業報告作成し、4月24日に監査が無事終了した。現在、内閣府へ提出する2012年度公益社団法人事業予算報告書（6月末が提出期限）の準備を会計理事、事務所とともに進めている。

4. 会計（熊谷）

2013年4月24日の会計監査に先立ち、公益社団法人に移行したために必要となった会計項目の修正を会計士とともに精力的に進めた。会計監査も無事終了し、現在、内閣府へ提出する2012年度公益社団法人事業予算報告書の作成準備を進めている。

5. PASJ（茂山）

PASJとOUPとの契約完了に向けて作業中。契約内容について、今後大きな変更が起こらないように十分精査した。論文著作権は契約中も契約後も学会に帰属することを、契約事項に明記することにした。契約事項について問題が生じた際にはOUPと議論して決めるということも契約事項に入れることとした。

OUPが日本円での掲載料支払いシステムを構築中であるが、システム立ち上げ初期段階のため、料金設定の細分化が難しいそうである。そのため、当面は掲載料は会員種別に依らず一律にしてもらいたいとOUPから要望があった。それを受けて、掲載料をOUPと契約後、当面はキャンペーン価格として、非会員も会員価格と同じとすることとした。将来は、現状の掲載料システム（会員と非会員で異なる額を設定）に戻す予定。現状では掲載料の9割は会員が支払っており、これによる減収は2012年度決算をもとにすると、全体の2%ほど（数万円程）と予想される。E-open価格はOUPと契約することで、現行（8万円程）より高くなる（22万円程）予定。別刷り代も大幅値上げになりそうであるが、今後、OUPと協議の上、現行の別刷り代を維持可能か交渉する。また、今後、OUPとの契約について会長、PASJ編集長、会計理事に一任することとし、契約内容を確認した後、会長がサインすることとした。

学位論文規定が変更になり、学位論文はインターネット上に公開する義務が生じた。それに伴い学位論文などを大学リポジトリに登録するところが多くなってきたことから、PASJに掲載された論文のリポジトリ登録の取り扱いについて議論した。物理学会の例に倣い、PASJに掲載された論文のリポジ

トリ登録について許可申請は不要などのガイドラインを設けることを理事から提案し、議論した。また、他の雑誌の例を挙げて学位論文の取り扱いも紹介した。学位論文の著者は、天文学会の許諾なしに論文の一部またはすべてを学位論文に使用することができるという例があった。この逆に学位論文の一部または全部を PASJ に発表した場合のリポジトリ登録の扱いについて議論した。議論の内容を踏まえた案を、5月26日開催予定の代議員総会で提案するべく、PASJ 理事と編集部で練ることになった。

今年度は、太陽電波関係の特集号を出版予定。

#### 6. 天文教育（山岡）

春季年会時に開催されたジュニアセッションは活況であった。今回、予稿集を 100 部増刷したが、朝のセッション受付の途中までで印刷した予稿集をすべて配布してしまい、それ以降の配布要望に答えられなかった。次回はさらに 150 部増刷する予定。また、今回のジュニアセッション予稿集の電子版を作成し、ダウンロードできるようにすることを検討中。講師派遣プログラムに 5 件問い合わせあった。社会教育施設の事業計画は通常 9 月頃までに決まる予定であるため、講師派遣プログラムの詳細を検討中。

国立女性教育会館が主催する女子中高生夏の学校 2013（「夏学」）について、これまで男女共同参画委員会で対応してきたが、教育委員会の活動としても協力することとなった。今後、日本天文学会の協賛等を申請する。

日本学術会議では、学術大型研究計画の議論に加え、大学教育（分野別質保証の参照基準）、夢ロードマップの改訂、が大きな活動内容である。大学教育については物理学委員でまとめるので、物理学会と天文学会が協力を求められている。まず学術会議会員・連携会員からのアクションが必要であるが、天文学会側では天文教育委員会を中心に対応をよろしく願いたい。（櫻井）。

#### II-4 全国同時七夕講演会の開催と実行委員会（山田）

本年度も引き続き実施する。日本天文学会が主催、天文教育普及研究会共催で 6 月 29 日～8 月 18 日に実施予定。これまでは京都大学で行っていた全国同時七夕講演会の事務局（問い合わせ窓口）を日本天文学会に開いてもらいたい。今年度の七夕講演会の実務は東北大学で行う予定であるが、日本天文学会で七夕講演会問い合わせ用メーリングリストを作り、学会事務所に問い合わせが来た際には電話対応等をお願いしたい。今後、七夕講演会を 4 条委員会にして対応する必要があるかもしれない。

なお、例年、事務所には七夕講演会に関する電話問い合わせが複数あるので、今年も電話対応については例年通りと考えている。その他の業務については、事務

所内でまず検討したい（西野）。

## II-5 事務所の近況報告（西野）

危機管理のため、事務長以外に理事会全体を把握できる人材が必要であることから、今回の理事会より黒岩事務員も同席してもらうことにした。

## II-6 今後の年会の準備状況

### 1. 東北大学（山田）

開催日程は2013年9月10日～12日。場所は東北大学川内キャンパス。部屋はすでに確保済み。懇親会は生協を予定している。現在、ウェブページの準備を進めている。ネットワークアクセスについては、ネットワークのための部屋を確保し、無線LANの提供も予定。しかし、各会場でゲストアカウントを作成するのは、大変でネットワークも安定しないと予想されるため、eduroam方式の無線LANを使ったシステム構築を検討。バス増発を依頼予定。

### 2. 国際基督教大学（石丸）

埼玉大学で開催された年会を視察した結果、ジュニアセッションの会場が現在予定している312名収容の会場では手狭であると予想されるため、定員462名の会場に変更を検討中である。大学等で年会を開催する場合、400人以上収容できる部屋の確保が難しいので、ジュニアセッションのパラレルセッション化なども検討してもらいたい。

合同進学会のポスターボードの経費を捻出する必要がある。日本天文学会所有のボードを使うか、ボードのための費用が別途必要になりそうである。費用は、天文学会から出してもらいたい。当日の学生アルバイトは集まりそうであるが、年会準備段階の助っ人がもう少し必要である。年会会期中に使用可能な無線LANの調査を大学の情報関係部署と始めたところである。

### 3. 山形大学（滝沢）

日程を2014年9月11日～13日に確定。14日に公開講演会を行う。物理学会年会（物性）と物理学会（素核宇）の間の日程である。会場等は予約済み。13部屋、会議室1つ、ポスターセッション用の体育館、和室を3日間借りて、大学職員の割引料金で約30万円程で予約した。公開講演会はJR山形駅近くの山形テルサで開催予定。公開講演会の内容はこれから検討する。山形コンベンションビューローと協議し、駅に歓迎の看板設置、観光案内、飲食店の案内、年会会場と懇親会場との移動のバス代補助をして頂くことになっている。コンベンションビューローからの開催助成金の制度があるが、宿泊者本人が提出した宿泊施設の証明書を200通以上添付する必要がある、事務処理が

煩雑と予想されるため、実際に申請するかどうかは検討中。なお、公開講演会について、大学、市および県へ後援を申請する予定である。

#### 4. 大阪大学（林田）

日程は2014年3月18日～21日で、公開講演会は3月22日を予定している。懇親会場はキャンパス内のカフェらふおーれ。講演会場は大阪大学会館/講堂(250+200=450名)、共通教育大講義室(300名)、他150名以下の教室適宜。ポスター会場は第二体育館または大阪大大学会館アセンブリホールが候補。物理学会が豊中キャンパスで連続して開催される可能性があるため、公開講演会を物理学会と共催で行う可能性も議論中。学内LANはゲスト利用可能。東北大会で報告のあったeduroam方式の無線LANも検討してみたい。

#### II-7 会員名簿の記載事項について（中村）

日本天文学会が発行する会員名簿への個人情報の記載事項について準会員1名からの問い合わせを受け、記載事項の確認を行った。定款60条の記載事項を確認し、2012年5月号にアナウンスされた会員名簿掲載事項に関する案内通り、会員名簿への最低限の掲載事項は会員の氏名、会員番号、所属とすることが確認された。なお、所属に関しては、一般的な職種（例えば、公務員等）の記述でも可とする。

#### II-8 年会について（櫻井）

年会の国際セッションの今後の対応について意見交換を行った。2013年度春季年会では企画セッションとして国際セッションを募集したが、今後も当面はこの方法で、国際セッションを拡大する方向で進めることが確認された。2014年度春季年会に向けて、東アジア VLBI や系外惑星探査など、東アジア地区で共同研究を展開している分野に打診する。

年会に plenary 的なセッションを設置し、それを国際セッションと合同で運営しても良いかもしれないが、年会の内容を大幅に変更する必要があるため、今後の検討課題とした。

#### II-9 早川幸男基金の今後の運用方針（櫻井）

会長と会計理事が、早川基金に大口寄付を頂いている方に近々面談に行く予定。若手研究者（大学院生を含む）を早川基金の財源を用いて長期間派遣する案は財政的に厳しそうである。まずは現行の早川基金の予算を増やしたり、補助内容の改善を行うこととした。改善案については、早川幸男基金選考委員会でも検討してもらおう。

#### II-10 公益社団法人の略称について（中村）

事務所で公益社団法人の略称について調査したところ、(公社)を使用する公益社団法人が増えてきたため、日本天文学会も略称として(公社)を使用することにした。

### III. 議題

- III-1 公益社団法人日本天文学会 2012 年度事業報告書の承認 (資料 5、中村)  
全会一致で承認された。
- III-2 公益社団法人日本天文学会 2012 年度決算書の承認 (資料 6、熊谷)  
全会一致で承認された。
- III-3 新規加入者の承認 (中村、資料 3)  
全会一致で承認された。

#### [資料リスト]

- 資料 1 理事会出欠表
- 資料 2 前回理事会 (2013/3/20) 議事録
- 資料 3 新規入退会・移籍者などの報告
- 資料 4 監査報告書
- 資料 5 公益社団法人日本天文学会 2012 年度事業報告(案)
- 資料 6 公益社団法人日本天文学会 2012 年度決算報告書
- 資料 7 欧文研究報告の理事会資料
- 資料 8 全国同時七夕講演会の開催と実行委員会について

2013 年 5 月 11 日

会 長：櫻井 隆 印

副会長：奥村 幸子 印

副会長：山田 亨 印

監 事：尾中 敬 印

監 事：郷田 直輝 印